

平成 29 年度 第 3 回 公民館運営審議会 会議録

平成 30 年 3 月 16 日（金）午後 2 時 00 分～  
中央公民館講座室 3

出席委員：萩原委員長 加嶋副委員長 吉成委員 永井委員 西田委員  
小松委員 喜多委員 中野委員 梅原委員 井上委員

出席職員：坂本教育部長 西本中央公民館長 西川浜手地区公民館長 西出山手  
地区公民館長 井川中央公民館主査 中川中央公民館主事（書記）  
北川中央公民館主事（書記）

事務局：ただいまより平成 29 年度第 3 回公民館運営審議会を開催致します。

部長挨拶：寒い中、また足元の悪い中ご参集いただきありがとうございます。

本日私は朝から卒業式に参りました。津田小学校は卒業生が 35 人。一番多い時には 150 人ほどいたそうです。私は昭和 30 年代の生まれでその時は 2 クラス。北小学校は 4 クラス西小学校も 4 クラスでした。西小学校は全校生徒 1,000 人くらい。北小学校でも 900 人くらいだったと聞いています。

今では北小学校は 300 人くらい。一番大変なのは永寿小学校で全校生徒で 80 人割って 76 人くらいです。東山小学校は今 1,000 人くらいいるそうです。

そのような状況ですが、子どもの数は間違いなく減っています。公民館をはじめ本市の社会教育関係はもちろんですが、色々と色んな意味で考えていかなければならないと思います。これからもみなさんのお知恵を拝借しながらすすめていければと思います。どうぞよろしくお願いします。

事務局：本日会議は 10 名中 9 名の出席です。この審議会は会議録を作成する関係上 IC レコーダーで録音させていただいておりますのでよろしくお願いします。

（委員 1 名遅参）

委員長：みなさま、年度末のお忙しい中ご参集いただきましてありがとうございます。今部長からも話がありましたが、私も 2 日前が大学の学位授与式で卒業生を見送ってきました。少子化の問題を大学でも実感しています。それに加えて下宿している学生が引っ越しができないという話も聞いています。引っ越し業者が人手不足で 2 月の末から 3 月までの予約が全然取れないそうです。そのためうちの学生も予定していた日に引っ越しができないのでどうしたらいいかと話をしていました。というように人手不足問題も深刻になって社会全体の変化も肌で感じるようになってきました。そうした中で公民館社会教育もどうあるべきか、みなさんのお知恵も借りなければいけないなと思います。今日はよろしくお願いします。

委員長：まず前回の審議会の会議録について、お願いします。

## 1 審議会の会議録について

館長：第2回公運審の会議録を事前に配付しました。みなさんの意見も聞きながらやっていくわけですが気になるところがあれば今、ご意見をいただけたらと思いますがいかがでしょうか。本日は書記で職員が入っています。なおかつICレコーダーで録音しています。

委員：前回の審議会で公民館タイムズが廃止されるというところで、広報かいつかにリニューアルされるということですが、紙面をできるだけ確保したいということで関係課と話をしているというところで止まっています。公民館タイムズの場合はA4で4ページです。その後広報交流課の担当者の説明を聞くと、公民館タイムズを広報に折り込みながら、公民館の場合特別に紙面を押さえていく。紙面を確保するため努力していくということでしたが、その努力の結果はどうになりましたか。

館長：広報かいつかの1ページ分をほしいと要望をあげて、各課調整し、1月の末にほぼ公民館の部分はOKと答えをもらっていました。具体的には5月号からになります。A3、1ページを公民館タイムズとして毎月公民館のページとして使うということで最終決定に至りました。

委員：広報交流課の予算ですか。

館長：広報交流課の予算です。

委員：なんらかの理由で今月はページを我慢してくださいということはないですか。

館長：ありません。毎月いただけるということです。

委員：口約束でなく書面でもらわないと。いつの間にか変えられていたという事があるので、広報交流課に一筆書いてもらってはどうですか。

館長：1ページの中身のレイアウトも公民館がすると確約をもらっています。間違いありません。

委員：間違いが出るのです。人事異動で変わってしまった場合完全に引き継いでいるのかわからないです。

館長：教育部長から向こうの部長へも確認をとっていますので間違いありません。

委員：この席に教育部長及びみなさんがいるのが証人ですね。

委員長：今日の記録も残りますので、大丈夫かと思えます。

事務局：公民館タイムズというタイトルが「公民館からのお知らせ」等そういったものになる可能性があります。

館長：いずれにしても公民館のページということでは確約が取れています。

委員：今のところは公民館タイムズという名称なのですね。

館長：今のところはそうです。

委員長：他のところでは何かご意見ございませんか。なければ次の議題に移りたいと思えます。

## 2 貝塚公民館大交流会について報告（2月24日）

事務局：貝塚公民館大交流会（第6回貝塚公民館大会）、先月2月24日土曜日午後1時から午後4時まで浜手地区公民館で行われました。みなさんお越しいただきありがとうございます。内容としては、始めに浜手地区公民館クラブの「ストレッチ体操浜風」とつげさん体操をしました。次に講演として、和歌山大学教授村田和子さんに、「貝塚公民館の歴史」「貝塚公民館が大切にしてきたこと」の話をしていただきました。次にグループトーク、テーマは「私にとって、私たちにとって、みんなにとって公民館は〇〇です」この〇〇を話し合いました。

集合にあたりましてはマイクロバスを使って、駐車場も第五プール横の駐車場も使いましたが、そこまでいっぱいにはなりませんでした。当日の参加者数は132人。事前申込制を取っていましたが、当日参加も18人いらっしゃいました。各グループにわかれてグループトークをし、活発な意見交換が行われました。

委員長：参加された委員の方から当日の様子をお願いします。

委員：盛況で、参加者の意識は高いが、みんなにどうやって伝えていくかが一番大事だと思います。公運審の委員の方にも案内のチラシが届いていたと思います。忙しかったと思いますが、もう少し来ていただければ公民館の実態が分かってもらえたかと思えます。それと、本当に知ってもらいたいのは貝塚市議会議員、貝塚市職員です。公民館大会とは何かというのが大部分の人かと思えます。利用者が一生懸命やったのをどう伝えればいいのか。公民館を活発にしていくなにはどうしたらいいか。やっていきたいが広がっていかないのが現状です。口コミで伝えていくのがいいかと思えます。そこで5年も続けているが来年も続けてほしいです。もっと公運審、市議会議員のメンバーに参加してもらわないと、有料化の検討も市議会議員が判断するので、有料化の動きが出た時に実際の活動を見てもらって有料化するなら良いが、実際は見てもらっていないの

が現実なので、今後どうやっていけばいいのか公運審として、検討していかななくてはならないと思います。

委員：私は浜手地区公民館の利用者連絡会の代表をしています。浜手はあまり広くはないのでほぼいっばいの人数だったがもっと中央や山手から来てほしかったと思いました。あと、グループトークの中で結構厳しい意見も出ていました。公民館のことを行政職員がほとんど知らない、中央公民館の場所がわかりにくい、公民館の職員が挨拶しないとも出ていました。そんなこともないかと思いますが、よそよそしいと感じる人もいるようです。総じて公民館を利用している人はすごく公民館愛をもっていると感じました、その数が減っていて、それが広がらないのでその数をもっと増やそうという話は出ましたが、公民館タイムズで初めて知ってクラブにきたと言う人が多かったので、タイムズの力は大きいと思いました。ただ、口コミや紙媒体も大事ですが、村田先生の話の中でもあったように、今の若い人を狙って SNS をもっと活用していかなければならないと思いました。

子どももゆくゆくは大人になっていきます。特に浜手はロビーになんとはなしに子どもが来ているので、そういう子たちの居場所であることも大事だと思います。またこの子たちが公民館って「知ってるよ」と、「子どものときよく行ってたわ」と、そういう思いが大人になってからも繋がるきっかけになるんじゃないかと思いました。

委員：去年も行ったのですが、あまりわかりませんでした。今年は2回目ということもありましたので。グループトークをするのに時間をもて余すかと思いましたが結構話をしてくれて途中で「時間ですよ」と言わなければならぬくらい話をしてくれてよかったです。

感想として、大会に来られた方はそれなりの意識を持って考えているが、このことをクラブ全体に、クラブ員が公民館とはどういうところかの理解を深めることを進めていかななくてははいけません。大会でやった内容のことを本来はそれぞれのクラブですることだと思います。そうでないと色々な知恵がでてきません。役員だけが一所懸命やっていますが、色々な発想が出てこないです。ここにきている人が価値観を見出すような話し合いをしないといけないと思います。

委員：初めての参加で、どんなことをするのだろうかと思っていました。村田先生の話は公民館の歴史、こういった人の集うところとわかってすごいところだと、今の現実とは違うのだと思いました。

私は2班に入りました。どういったトークになるかわからずに始めましたが本当に分刻みのトークで硬いと感じました。時間を決めて、際限なくする話をセーブするためにしているのでしょうか変わった話し合いだと思いました。

交流会で知らなかった人と出会え、文化関係のチラシをもらいましたがそれが近所の方に関係のあることでした。そういったことが口コミで広がっていくのだなと思いました。

委員：できるだけ大会へ行くようにしています。駐車場の問題、私は貝塚から路線バスで浜手へ行きます。帰りはタクシーで帰ります。公運審の委員である以上、責務だと思って参加しています。毎回建設的な意見は交わされていますが、その意見が公民館の日常的な事業にうまく反映されていないのではないのでしょうか。それは私たち委員の責任でもあるし行政の責任でもあります。そこで吸い上げられた意見をできるだけ反映させていく。そのためにはもっと公民館タイムズに事業の案内だけを書くのではなく、市民が生きがいになるんですよ、あなたのプラスになると書かなくてはいけないと思います。毎年建設的な良い意見が出たなと思いますが、それで終わっているともったいないなと思います。市議会議員にもぜひ見に来てもらってグループ討議の中にも入ってもらって、私たちの話を聴き、議員の立場で発言してもらえたらいいかと思います。

みんなの公民館だと言いますが、司会が早口で、耳の不自由な人がいたら手話通訳できたでしょうか。私の場合見えないのでどうすればいいかわからない。体操をしたらいかんとは言わない。やっていることを障がい者ができるかといったらできないです。できる人とできない人がいます。できる範囲も違います。それはいいと思います。問題は企画する側が障がい者がここに来たら何を配慮したらよいか意識されていないことにあります。その意識を持たない限りみんなの公民館と言っても障がい者だけでなく、高齢者もいます、小さなお子さんを抱えた人もいます。色んな方が心にわだかまりなく来れるようにしなくてははいけません。平成28年に「障害者差別解消法」が施行されて職員には人事課から研修があったと思いますが、市民にも周知しなくてははいけません。

グループトークに入ります。私のグループでリーダーの方が「紙に書いてください」と言う。「私が代筆しましょうか」と言うかと思ったら言わなかったです。ガイドヘルパーが代筆しましたが、それは平成26年までガイドヘルパーの業務ではなかったです。そういったことも主催者として、意識をもっていないです。大部分の市民はそうだと思いますが。

それを啓発していくことが行政職員の使命であって、「貝塚市における障害を理由とする差別を解消するための職員対応要領」で描かれていることです。職員が事業をする場合、必要な指導とまではいきませんが情報提供しアドバイスすべきだと思います。

委員：公民館の必要性も話されていたし、公民館の大切さも感じましたが、公民館利用者自身が公民館を守っていく、そういう思いが大切との話もありました。自分たちの所属するグループで語っていくことを意識的にしないと普段のクラブ活動で流されてしまうので機会を作っていくと、と感じました。

グループトークではクラブ員が増えない、役員の成り手がいない、役員になりたくなくて辞めていく、来られている方は悩んでいるが共有して解決しようという場がないのか、そのクラブの問題となっています。そのクラブのしんどさをどこで吸い上げられるのか。しんどいからクラブがなくなっていくのを見ているだけなのもなんだかなと。よい場面を出しながらしんどいクラブは他クラブとも手をつないで、ということができたら理想じゃないかと思います。1つのクラブだけの問題ではなくみんなの課題であることを共有する場面を作ることが大事だと思います。

館長：実行委員会でも反省をしながらやっていますが職員も職員で意見を交換しながらやっています。委員からのご指摘では職員の配慮のなさもあったと思います。事前に来ていただくと聞いていた委員の席をどうするか、資料をどうするかという配慮はしていましたが、色んな人が来てもらえる体制をとっていかなくてはならないと思います。

特に、委員のいうように他に知ってもらうことも大事です。市職員にもチラシを渡すと、ハードルが高いと言われます。何を話したらいいかわからないと。今のやり方もこれから考えていかないといけません。教育委員にはチラシを手渡しています。社会教育委員には案内を送っています。しかしそこで言われるのは「私たちが行ってなにができますか？」と。その方法も考えていかないといけないです。行政職員が公民館を知らないことをどうしていくか、考えていかなければと思っています。来年度の方針を議論しているところです。市職員に公民館に来てもらうことができないか。「まちのすぐれもの」の庁内版を募るとか、他課との共催事業とかを開催し、その中で公民館を知ってもらう等を考えていますがみなさんの意見を来年度に反映させていきたいと思っています。

委員長：いくつかポイントがあるので改善していただき、この審議会で意見をいただき考えていければと思います。

### 3 「一年の取り組み」について

館長：一年間取り組んできた各館の主要事業をパンフレットで掲載し、市民にも広く知ってもらうことを目的としています。総括は「あゆみ」という分厚い冊子に、細部にわたってはそこに掲載しています。職員の思いや反省課題をまとめています。製本できしだい配布させていただきます。色んな方に見てもらうにも限りがあるのでポイントを絞って広く知ってもらうために「一年の取り組み」のパンフレットを作っています。

中央公民館では、公民館まつりについてをメインに載せていて、講座については元気体操など高齢者対象事業に取り組んできました。地域に出かけるところでは、各地域に出掛けることも今までなら1つ2つでしたが今や日常的に各地域から要請があり、こちらからも仕掛けるということで今年度は4カ所にかけました。それをいわゆる出前事業として取り組みを進めてきました。あとは「ホッとワーク」や人形劇について掲載しています。裏面の一年間の取り組み一覧では対象事業ごとに掲載しています。

事務局：浜手地区公民館の取り組みの一端をご紹介します。

人権課題事業としまして「輝こう！ゴスペルで自分らしく」。つい先日行われまして参加者は81人。教会音楽とアフリカの音楽の融合でゴスペルが出来たそうです。その歴史的な話とゴスペルの歌を楽しみながら人権を学びました。

「右手に度胸、左手に愛嬌 大阪のおばちゃんにとことん学ぶ ガッチリ人心掌握術」という講座を行いました。9月25日65人の参加。大阪のおばちゃんはよく飴玉を持っていてくれる。そして初対面の方と打ち解けられると、コミュニケーションに長けている。こうしたことは全国的に見ても珍しいらしく、

大阪研究家の前垣先生に来ていただき身近な題材で人を思いやる気持ちを考える場を持ちました。

子育て支援事業「パパサロン」。パパと乳幼児がペアで参加するもので父親どうしのつながりもつくる事業です。5月から3月全9回延べ31組の参加でした。公民館の庭で畑作業をしてさつまいもでスイートポテトを作りました。その日は「かいづか家族の日」にちなみ、お母さんにも来てもらいました。季節的なものも取り上げて12月にはクリスマス会、3月にはひな飾りをしました。父親は交代勤務等もあり、毎回参加とはなかなかいきませんが徐々に定着してきています。

「京極流民謡と津軽三味線」。高齢者大学受講者の習い事から生まれた企画。ホールを使っての津軽三味線の力強い響きでした。参加者141人と好評でした。

成人対象事業としまして健康づくりの一環としまして「ノルディック・ウォークを楽しもう」を前期後期2回に分けて行いました。クロスカントリーの夏場の練習として始まったそうです。体力に合わせて軽い運動から汗ばむ運動までできるとあって、自分にあった形で専門家を招き指導してもらいました。

青少年対象「おばけやしき」8月25日144人。もともと人手が多かったです。子どもが企画して、創造力を刺激し、ボランティアにも手伝ってもらい作戦会議を開いて、おばけの役も設営も行い、参加してもらいました。

「出前寄席」。南上町にて行いました。町会と公民館の協力で行い、出演者への交渉は公民館が、広報等は町会が行いました。身近なところで寄席を楽しんでもらい地域の中での交流を促進するねらいで、台風が接近していたが楽しんでもらえました。

事務局：続きまして、山手地区公民館です。公民館は年度ごとに事業ごとの重点目標を掲げています。しかしたくさん目標がありすぎて職員にもわかりにくい。職員が目標意識して事業に取り組むことができるようシンプルに2つキャッチフレーズを決めて、「あなたの身近に公民館」「つながり広げる公民館」の2つを特に意識して進めてきました。

1つ目の「あなたの身近に公民館」は地域との連携を深めることです。これはどういうことかという、公民館は社会教育施設です。地域、あるいは地域を超えた人とのつながり、地域貢献を大切にしています。また今まで公民館を利用したことのない人に来ていただくということ。ただ、今まで利用したことのない人に来てもらうことは難しいので、来てもらうための工夫、仕掛けが必要です。そのことはのちほど説明します。

2つ目の「つながり広げる公民館」は受講者同士、参加者同士世代間のつながりを深めることです。公民館のクラブを自分たちだけの楽しみに終わらせず、新たな人との出会いや、交流、支え合いの人間関係、そういうことが大事じゃないかと。職員もそういうことを期待して講座や事業を考えています。

具体的な事業はポイントだけお伝えしたいと思います。まず1つ目の「あなたの身近に公民館」の事業として、「はじめての人形劇」。これだけ読むとただの人形劇かと思うかもしれませんが、平成27年度に「貝塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。そこで公民館が関連していることとして、子育て関係、特にお父さんたちに子育てに関わってもらおうということで、山手地区公民館では「ジョイフルふぁみりー〜おとうさんといっしょ〜」を開催

してきました。しかし、なかなか子育てしているお父さんには来てもらえないので、工夫としてこの人形劇を開催しました。まずは人形劇で公民館に来てもらってそこでチラシを配り「ジョイフルふぁみりー～おとうさんといっしょ～」につなげようという狙いでした。思ったほどつながりませんでした。

「ロビーコンサート」。公民館のロビーですることには意味があります。ホールの前に椅子を並べて奇数月の第3火曜日、お昼の時間帯に行っています。プロではないのですが質の高い演奏を行ってくれています。これを目的に聴きに来てくれる方も多いのですが、山手地区公民館には市民サービスコーナーがあり、住民票や戸籍謄本を取りに来ると同じフロアでコンサートをやっている。「すごいな」、と足を止める。そして公民館に関わってもらおう一つのきっかけにすることが狙いです。

「ジャグラーGTのジャグリングショー」。ジャグリングとは大道芸や曲芸のようなものです。ショーとして見ていただくだけでなく、体験タイムに実際に体験してもらう。7月1日に行ったが、次のステップとして8月から10月に「ENJOY☆ジャグリング」講座で、みなさんに実際にジャグリングを練習していただきます。最終目的は10月の公民館まつりで発表をしてもらうということでした。実際には3人ほどしか発表してもらえなかったのですが、200人300人入るホールでやる。客席のみなさんは失敗しないかと思ひ見ます。プロの人がすると次はどんな芸ができるのかと期待していますが、素人がやると失敗しなかなと思ひながら自然と応援したくなります。実際失敗します。そうするとみなさん息を飲んで観て成功すると大きな拍手が起こります。

「おさんぽかばさん」。乳幼児親子の居場所づくりです。お父さんが来ていただいてもよいのですが、子育てをしているお母さんの居場所づくりが目的です。子育て中のお母さんは家にこもって精神的につらい思いをしている人もいます。そういう方に出てきてもらって交流してもらう。しかし、初めて来てくれた人にとっていきなり交流は難しいのでボランティアの方が参加者同士の会話をつなげる役目を担っています。また、ボランティアの方は先輩お母さんとしてのアドバイスもしています。

次に2つ目の「つながり広げる公民館」の事業についてです。

「男のヨガ」。男性に限ったヨガです。なぜかという山手地区公民館では現在、ヨガや卓球が人気で、ヨガクラブは3つありますが、どのクラブも女性がほとんどで男性が入って行きにくい雰囲気があるのです。よって男性限定の講座を開催しました。受講者16人。おじさんばかりが集まって行うヨガはなかなかすごい光景でしたが、受講者同士での交流が深まり、最終的に「男のヨガクラブ」を立ち上げました。まだ活動協議会には加入していませんが、現在8人で定期的に活動しています。仲良く和気あいあいとコミュニケーションを取って進めています。運営が安定してきたら自主グループからクラブへの発展もあるかと思ひます。

高齢者講座「ことぶきクラブ」と子育てサークルの交流会。「ことぶきクラブ」は65歳以上の高齢者対象の公民館主催の連続講座です。それと子育てサークルは子育ての同好会です。山手地区公民館には現在2つの子育てサークルがあるのですが、「ことぶきクラブ」からの声掛けで世代間交流会を行いました。「ことぶきクラブ」のメンバーがびっくり箱作り、昔遊びを教えるという交流会でした。これはこの1回に限らず、敬老の日に子育てサークルから高齢者に



プレゼントしたり、秋にはチヂミを焼いてロビーで仲良く食べたりと世代間の交流が進みました。

「たまねぎ劇場」。表にありますように、色んなメンバーが協力してひとつの事業を創り上げていきます。大人の団体だけでなく「みなみバレークラブ」は子どもたちの団体です。異なる種類の団体が出演し、世代間の交流の場になりました。

「将棋倶楽部」。受講者は小中学生対象ですが、ボランティアの方にも関わっていただいております、小学生とボランティアの交流の場にもなっています。1月には「新春将棋大会」も行いケーブルテレビの取材も受けました。

最後に私は10月の人事異動で山手地区公民館に参りました。前任の館長が館の事業方針や方向性を決めていましたのでとてもやりやすかったのですが、次年度の館の方針などについて館の職員とそろそろ話合わなければと思っています。

委員長：三館の一年の取り組みについて、何かご意見等がありますか。

委員：今の報告とは直接関係ないのですが、福祉センターでしている事業で「遊び隊」に来ていただき、おもちゃ作りをしました。非常に好評だったのでこの場でお礼を申し上げたいのと、またこうした企画を行った際にはお手伝いいただけたらと思います。

館長：非常に人気があり、年間何十回も出かけていただいております。本日出席されている委員の1人もメンバーです。またよろしくお願いします。

委員長：他にご意見はございませんか。補足もないようでしたら事例発表に移りたいと思います。

館長：本日は公民館でも活動されている貝塚ファミリー劇場から2名来ていただいております。事例発表をしていただき、みなさまのご意見も後ほど頂戴したいと思います。よろしくお願いします。

#### 4 事例発表（貝塚ファミリー劇場）

貝塚ファミリー劇場：よろしく申し上げます。私は貝塚ファミリー劇場の事務局長をしております。子どもを心豊かに育てたいと、公民館職員の働きかけで、「公民館ファミリー劇場」として発足し、「親子劇場準備会」を経て、4年後の1986年に自主運営として出発することになりました。この4月の総会で33年度を迎えます。一昨年、その30周年誌を作成しました。

日本全国のプロの劇団を招き、舞台鑑賞を年6、7回くらい行っています。年齢に合わせて人形劇、舞台劇、音楽劇、ジャグリングや狂言等の色んなジャンルを組み合わせ各年齢にあわせて、それぞれ年に3つの劇を観ています。

子どもたちの習い事が最近多く、親子・地域の関係が希薄化しているように感じています。そこで親子で共有する時間を大切に、子どもの心を安定させ、自己肯定感を高め、親子のコミュニケーションを取る機会にしたいと感じています。

先ほども言いました、自己肯定感を高めてもらいたい。舞台鑑賞をすることで登場人物の疑似体験ができます。それによって共感する力や想像する力も養うことができます。劇団も色んなメッセージを子どもたちに伝えたいとすごく考えておられて、場数も踏まれていますので、子ども達の感じていることをプロの劇団さんなのですごく受け止めてくださっていると感じますので、そこが身近で舞台を鑑賞することの良さかなと感じています。

30年間先輩の方々が繋いできた年数からかと思いますが、劇団の方から貝塚の子どもたちは観る力がついているとおっしゃっていただきます。ただ始まったから座って、ということだけじゃなくて、舞台が盛り上がった時は一緒に盛り上がり、でもずっと盛り上がっているのではなくて、次を楽しみにしているから自然と集中して静かになれるということをととても褒めていただけます。ずっと見続けてきた子どもたちの観る力を感じています。

私たちファミリー劇場が大切にしているところにも繋がるのですが、活動を通して文化豊かなまちづくりを目指しましょう、という事と、子ども達が生きる力を育むような、例会を作っていきます、ということ掲げています。

また、現会員が楽しむだけでなく、全部の校区で会員がいるのですが、卒業した方も含めれば、ファミリー劇場に関わってくれた方は何千人もいます。年齢も幼児から中高生、青年までいますので異年齢の交流もできています。その成長が分かる活動の1つに、「こども市」というものがあります。小さい子どもが本物のお金を使ってお店をするのではなく、「こども市」は「ベル」という紙でできた、「こども市」だけで通用するお金を使い、子ども同士で実際に売り買いをします。自分の手と頭を使い、準備から片付けまで自分たちで行います。親はあくまでサポートするだけです。身体1つでできる腕相撲屋さんもありましたし、手作りのゲーム、輪投げ、段ボール迷路をお父さんの力を借りてしたりもしていました。青年も昔楽しかったダンボール迷路を久しぶりに復活させてくれました。もちろん景品も手作りで準備しています。銀行もあります。「ベル」と現金を交換します。材料費は売り上げから差し引きます。というような体験ができる場となっています。

キャンプも行っています。始まった成り立ちを説明すると、高学年の子どもたちにも魅力のある活動があればいいなということで始まったそうです。年齢に見合ったキャンプが出来ていると思います。親子で参加するものは小学校3年生まで。4年生以上6年生以下は親から離れて「チャレンジキャンプ」というものを行っています。そして中高青キャンプも開催しています。

中学生になるとクラブが忙しく、なかなか参加できない子たちも増えてきますが、居場所作りになればということで、自分たちがやりたい活動を自分たちで考え、色んな食べ物を作りたいとか、クリスマス会をしたいとか。それも自分たちで作る活動の場所となっています。小さいころから入っていて今現在37歳になった子もいます。その子が中高青部長もしてがんばって引っ張って行ってってくれていました。

20歳になったら「20歳になって思う事」というメッセージをもらうのですが、でも、「ネギッ子」という広報誌で紹介した20歳の子が私たちの活動に対して思うことを書いてくれて、若いお母さんたちや私たちの心を打ったので紹介させて頂きたいと思います。

貝塚ファミリー劇場：読ませていただきます。

・・・読み上げ・・・

「私（青年）と劇場」 20歳になりました、この節目に自分の劇場に対する思いを書かせていただきたいと思います。

中学高校大学と地元の学校に通わなかった僕にとって、劇場は貝塚と僕を繋げてくれる大切な場所でした。劇場のプログラムに参加することは少なくなりましたが、今も帰省するたびに変わらず会って遊ぶ人たちがいます。また、やりたいことを思いっきりする楽しさや達成感を学んだのも劇場でした。学校では全く教えてくれない大切なことをたくさん吸収できたように思います。

さて、自分のことはこれくらいにして、自分が劇場にはずっとうこうあってほしいという思いを書きたいと思います。

今の世の中は目的の決まった作業が非常に多いように感じます。どうして勉強をするの？という疑問に対する定番の答えが「将来のため」となっていることはこのことをよく表しているのではないのでしょうか。この目的志向の是非は一度置いておきましょう。ただ、目的を気にせずに活動できる場が少なくなってきたことだけはしっかりと言及しておきます。

2011年度センター国語の試験で出題された文章である鷺田清一さんの「身振りの消失」の中で、「遊園地」と「原っぱ」が面白く対比されています。つまり、遊園地はそこでの目的がはっきりとした空間であり、何をするかが決まっている一方で、原っぱはそこに集まった子ども達の行為の糸が絡み合い、空間に意味が生じる場であるとし、このような空間にこそ「中身」が宿ると言うのです。僕の思う理想の劇場はまさに「原っぱ」です。そこでは目的の強制がなく、集まった子ども達の絡み合いによって形ができます。子ども達は二度と同じ形のできない「原っぱ」で思いっきり遊んで欲しいです。大人の方にはその原っぱの境界線で見守っていて欲しいです。たまに「原っぱ」の草刈りをしながら。そんな貴重な「原っぱ」貝塚ファミリー劇場がこれからも続くことを願って、画面を叩く手を終えさせていただきたいと思います。

・・・読み上げ終わり・・・

20歳の青年が20歳の言葉で書いてくれました。

貝塚ファミリー劇場：ファミリー劇場も10年くらい前は800人くらいいましたが、結果が出る習い事にいく子が増え、現在は300人ほどです。入会がないわけではないですが、忙しくてなかなか参加できなかつたりでやめていく人の方が入会の方よりも多くて減っているのが悲しいところなのですが、ただ市の職員の働きかけから始まったというところがありがたいところで、全国でもこうした劇場は縮小したりなくなったりしているのが現状です。

市とつながって支援してくれる親子劇場は大阪でもないと聞いています。支援してくれることにとっても感謝しています。よそではチラシ一枚配れないとも聞いています。私たちにも色んな課題はあるのですが、すごくありがたいことだと話をしています。

貝塚ファミリー劇場：私も今19歳の子が小学1年生になるときにファミリー劇場に入会しました。核家族で貝塚に引っ越してきました。私も私の主人も本当に

子育てに対しても色んなことに対しても無知で、奮闘して子育てをしている中でファミリー劇場の中で一緒に劇を観る。それが1つの居場所になって今はもう中一、高一、社会人が、他の日は全然集まらないのに例会の日だけは集まってくれる男の子たち。男の子だとなかなか会話がいないのですが、この間の劇はおもしろかったとか、残念な時もありますがその方が案外盛り上がりすぎます。そういう居場所を大事にしたいと思っていて、貝塚の小さい子どものいる親子にもそういう経験をしてもらい、地域の繋がりで心豊かに育ててもらいたいと思って私は活動しています。

委員長：ご意見感想などいただけたらと思います。

委員：中身はわかりませんが、10周年の時の委員長を知っています。子育ての問題も先ほど少し出ましたが、お父さんも仕事の関係で難しいですが、今の時代お父さんが子育てに参加しなければ厳しいと思います。私が子どものころは3代4代のひいおじいちゃん、ひいおばあちゃんと住んでいて、仕込まれ、常識を教えてもらってきましたが今は核家族でそれがありません。そういう意味ではお父さんが小さい頃から子育てに関われば今起こっているような事件も減るのではないかと思っています。

委員：私はこの10周年の時の編集委員でもありまして、3年間は運営委員長もやっていました。私がやっていた時は全盛期で1,000人を超えた時もありました。しかし、年々会員が少しずつ減ってきていて、なかなか自助努力だけでは会員を増やすのは難しい時代になったと思います。せっきやくの場なので行政に対してほしい支援を具体的に申し上げると、行政も動きやすいのではないかと思います。例えば中ホールを無料で貸してほしいとか。できないことかもしれませんが、どんどんやっていかないと。子育ての幅が広がったと思う人を増やそうとしたら、色んな子どもたちに出入りしてほしいと思います。そのために、どんどん厚かましく発信していかないと、道は開けないかと思っています。がんばってください。

貝塚ファミリー劇場：子育て支援サークル補助金を昨年から市を窓口にいただいています。事務所の課題は昔の和式トイレでした。小さい子が出入りするには危険で1人でトイレに行けませんでした。それを新しく改修できました。私たちは1人でも多く劇を観て感じてほしいと思います。次を担う若いお母さんたちが少しでも楽に活動できるようPR班も立ち上げてがんばっています。また、行政からもアドバイスをいただけたらと思います。

貝塚ファミリー劇場：公民館との共催事業として年1回小学校で人形劇や舞台劇を開催しています。その時は会員だけでなく、地域の方でも観ていただけます。地域の子どもたちは近いので来てもらえます。親は家にいて子どもだけ観に来る。その時は楽しい、でもそれで終わってしまう。それは1つの文化に触れる機会となり、大事だと思いますが続かない。なんでだろうと考えます。私が最初にファミリー劇場に触れたときは中ホールで行われる劇を小学校の子何十人

かに無料招待してくれて、そこから入会しました。その時は親子で申込みして観に行くという形でした。

今はテーマパークなど楽しいところがたくさんあります。その中から親がどこに連れて行くかが大事だと思います。なので子どもたちに来てもらって観てもらおうのも1つのきっかけですがやっぱり親に感じてもらってつなげることが大事です。そこが難しいのですが、そこもみなさんのお力添えがあればつながっていただけるのではないかと思います。

貝塚ファミリー劇場：共催事業は以前の館長から提案がありここ数年地域で開催しています。中ホールで平土間ではなく、一人一人座席にすわって子どもたちが観劇する経験もさせてあげたいと伝えたことはあるのですが。そうした機会があれば支援していただけるとありがたいです。

館長：わかりました、と言いたいのですが、なかなか。公民館もそうですが、若い世代がどう興味をもってくれるのか。常に問題意識をもっていないと、公民館活動はどうなっていくのか私はとても危惧しています。

役所の若い職員を呼び、公民館で何かしてもらったりできたら。そういったことをどんどん発信して若い世代が公民館で活躍してくれたらと思っています。

来年度、私は公民館職員としていないかもしれませんが、私はどんな立場でも関わっていきます。個人的にだんじり祭りにも関わっていて、地域の青年をまとめようとしています。そうしたグループをどう公民館と結びつけるのか。最初は公民館で場所貸しだけでもと思っています。

貝塚ファミリー劇場：観劇が子どもたちの脳にどう影響するかを研究している人が岡山県にいと聞きました。ぜひそういった勉強の機会もいただけたらと思います。

館長：引き継ぎしておきます。

委員長：何か質問はありますか。

委員長：先ほど「子どもゆめ基金」をいただいている仰られていましたが、それは自助努力ですか。

貝塚ファミリー劇場：はい。あと、大阪府の「芸術文化振興補助金」もいただいています。ただし、連続して申請できないので一年は休憩しないといけません。

委員長：会費がベースなので会員の数が減少すると厳しいと。

貝塚ファミリー劇場：厳しいです。

委員長：劇団はどのように選ばれていますか。

貝塚ファミリー劇場：東海連絡会という全国の親子劇場の組織があります。各劇団が個々で日程調整をすると大変なことになりますので、劇団との基本的な交渉と日程調整はそこがしてくれます。そこから毎年電話帳ぐらいの分厚いものを送っていただいて劇団を選べます。夏には劇団さんが5分でアピールする場所があります。参加費がかかりますが。運営委員が5人から6人参加して、その中で自分たちが子どもたちに見せたいものを選び、選考会というものを開き決めています。

委員長：子ども向けのものかはわかりませんが。私は奈良市の文化振興委員を引き受けていまして、現代美術の実行委員です。奈良市は高校生の劇に力を入れています。3月30日にその発表会に呼ばれていくのですが、あのような高校生の劇を観るという機会を作るのも楽しいかと思います。今まで来られていないところも開拓していったらよいのではないのでしょうか。高校生の演技はレベルが高くて全国レベルの発表会が奈良で行われてすごくよかったので、今年も引き続きという話が出ています。その関連でいくと、劇場法が出来て以来、レジデンス型の劇団があちこちできています。小さい劇場が劇団を作ってその人たちの創作をするという、劇場法が規定していています。日本のあちこちで劇団ができつつあります。日本で一番有名な劇作家である平田オリザさんが東京から城崎温泉があるところに拠点を移されます。なので関西で劇団のムーブメントが、日本中の劇団の関係者が関西に目を向いていて、奈良もそういう劇団の方が来られて高校生の劇を提案したとのこと。自分たちで創作演劇をしながら発表していくということですが、結構若者がそれに参加しています。結びついていくと面白いかと思います。よろしければ公民館に情報を提供しておきます。子ども向きかはわかりませんが。各館の方はもう十分に減免でこれ以上はできませんか。

事務局：明後日の日曜日にも山手地区公民館のホールを減免で使用していただきます。

貝塚ファミリー劇場：山手、浜手のホールで観劇する時等は三館（中央、山手、浜手）で協力していただいています。

委員長：小学校の結びつきは教育委員会を通じてですか。

貝塚ファミリー劇場：館長から。公民館を通じて行っています。

委員長：そうしたことのフォローも市として行っていると。特にご意見、ご質問等なければ以上とさせていただきます。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

## 5 その他

委員長：その他で何かありますでしょうか。

館長：事務局から。今日は年度の最後の会議です。任期で言うとみなさんはもう一年ございますが。現在、校園長会からも委員に来ていただいています。これは各機関、社会教育委員でもそうなのですが、委員は私と一緒に定年で退職されます。他の委員の方とは少し位置づけが違うのですが、委員の場合一年間委員をされて本日で最後になります。何か一言いただけますか。

委員：みなさまとは違った面での地域の活動を勉強できて貴重な機会となりました。感謝申し上げます。私も今第三中学校ですけれども、地元の山手地区公民館をお借りして、色々な企画、「ふるさとふれあいフェスティバル」とか、「ジョイントフェスティバル」等大きな催しの時は備品をお借りして、またホールでは子どもたちを集めて何かしたりしています。公民館を通じて、人が集い、地域の方が出会うことはとても良い貴重な経験です。

しかし、以前お話した中で三中校区の木島、葛城、東山の小学校全部が山手公民館を使えたらと思います。葛城は校区外です。小学校は校区外に出てはいけないと決まっています。山手地区公民館で楽しい催しがあった時に、葛城の子たちからいつも「行きたいのにな」という声を聞きます。これは学校側の問題なのですが、そういう地元の公民館に子どもたちが自由に行けるような仕組み作りも我々考えていかなければと思っています。一年間ありがとうございました。

委員：一年の取り組みについて、三館連携事業に三館利用者連絡会があります。年4回ほど会議をしています。情報収集、活動状況報告をしています。今年三館でクラブ交流として展示会を行っています。期末になってバタバタと決めたものですが、中央公民館で2/10～3/3まで山手の木工クラブの展示がありました。それから山手で3/5～3/19に中央の絵画クラブの展示を行っています。また、浜手でも3/9～3/23まで中央の水墨画クラブが展示しています。

中央では木工クラブがないので好評だったと聞いています。こんな立派なものができるのかという言葉をいただいたということで、出した方も喜んでおり、見た方にも喜んでもらえたとのこと。現在中央の絵画クラブが山手の奥ロビーで展示していますが、山手の水墨画も同時期に展示しておりロビーがにぎわっています。山手には市民サービスコーナーがあります。そこに住民票を取りに来られた方等も見ていただいてご好評だと聞いています。浜手では水墨画クラブがなく、こちらでも好評であると聞いています。これからもそういう機会があれば来年もしたいと思います。展示にするのか舞台にするのかということもありますが、報告だけさせていただきます。

委員長：ほか何かありますでしょうか。

委員：直接公民館の活動とは関係ないのですが、私はMOA美術館という熱海にあります美術館の児童作品展の実行委員をしています。毎年コスモシアターの小ホールに2日間展示しています。各小学校から2,300点ほど集まり、それを500点ほどに選考して展示しています。2日だけですので見に来られる方は関係者や親子、おじいちゃんおばあちゃんくらいなのですが、昨年からは貝塚市民病院と中央公民館で特別賞の33点の賞を飾らせていただきました。原本では

なく、カラーコピーしたのですが。誰かが触って汚してしまったりしないよ  
うにということ。それでも子どもの作品はすごく心を打つものがあるって、公  
民館に飾るということは関係者ではない人にも見ていただけるということで、  
メリットがあるなと感じています。実行委員会ではすでに来年は三館で飾って  
ほしいと聞いていますのでその節にはよろしくお願いします。

委員：信憑性のある話ではないのですが、1階の文化振興事業団から2階の中央  
公民館で活動するコーラスがうるさいという話があったのは本当ですか？

館長：うるさいというニュアンスではなかったのですが。ピアノの動かす音が下  
に響くというような話がありました。コーラス等の活動自体に、という話では  
私の知る限りではありませんでした。

委員：コーラスのグループ等が机や椅子を動かすと下が事務出来ないほど響くの  
ですか。

館長：視聴覚室のピアノは団体によってはよく動かします。これがコマが全く効  
かなくて手で引きずって動かすのですごい音が鳴り下に響きます。しかし今は  
台車を下に敷いたことによって改善してそういう話はありません。

委員：話を聞いている限り、そういうことを言い出したのは最近ですね。文化振  
興事業団ができたのは平成6年か7年だったと思いますが、今まで我慢してい  
たのか言わなかったのかわかりません。公民館運営審議会の委員をしているか  
ら肩を持つわけでもないですが、そこはお互いの事なのでそれくらいのことは我  
慢したらよいかと思います。みんなが協力し合い、助け合うことが大事だと思  
います。

事務局：コマは現在台車に載せて自由に動くようにしましたので大丈夫です。

館長：最後に私事ですが、3月末で定年退職致します。この場にはいられないか  
と思います。申し訳ございませんが、日程調整も新しい館長から後日お知らせ  
するということにさせていただきたいと思います。中央の館長としては半年間  
ではありましたが、色々とお世話になりました。ありがとうございました。

委員長：以上で会議を終わります。ありがとうございました。